



富士フィルム 東京大学発ベンチャー「エルピクセル」と提携 — AI 技術を医療画像診断支援に活用 —

2018年4月12日

富士フィルム株式会社(社長:助野健児)は、医療領域の画像解析に強みを持つエルピクセル株式会社(以下:エルピクセル)と医療画像の診断支援に用いられるAI技術に関するパートナーシップについて2018年4月10日に合意しました。今後、エルピクセルが開発する診断支援AI技術を、富士フィルムの医用画像情報システム(以下:PACS)に搭載していくことを目指します。

PACSは、CT・MRI・DRなどの医用画像診断装置で撮影した診断画像をサーバに保管し、医師がそれらの画像を院内の端末に表示して、読影診断するためのシステムです。近年、CTの多列化など画像診断装置の高性能化に伴って、撮影される画像枚数が増大しており*、医師がこれらの大量の画像を効率的に読影・診断できるソリューションが求められています。また、AI技術を活用することで、画像から病変の疑いがある箇所を検出したり、過去の症例と照合し、レポートを半自動で作成するなど、医師を支援し、医療現場の効率化に貢献できるソリューションが期待されています。このようなニーズに応えるために、富士フィルムは診断ワークフローをトータルで支援するAI技術およびソリューションの研究開発を進めています。

当社は、自社内でのAI技術開発と並行して、多様な疾患に幅広く対応するために、優れた技術をもつ国内外のAI技術ベンダーとも積極的にパートナーシップを組み、各社のAI技術を当社システム上で利用できるサービスの開発を加速させていきます。この取り組みの一環として、今回エルピクセルと提携します。エルピクセルは、医療領域の画像解析に強みを持つ東京大学発のベンチャー企業で、現在、複数の医療機関と連携し、AI技術を活用した医療画像診断支援の研究開発を進めています。今後、富士フィルムとエルピクセルは、エルピクセルが開発する診断支援AI技術を富士フィルムのPACS上で利用できる環境を提供していくことを目指します。

富士フィルムは、医療画像診断支援、医療現場のワークフロー支援、そして医療機器の保守サービスに活用できるAI技術の開発を進め、これらの領域で活用できるAI技術を、“REILI(レイリー)”というブランド名称で展開していく予定です。ビッグデータ化する診療情報に対して、今後、AI技術を活用し、医療現場のさまざまなニーズに応える幅広い製品・サービスを開発・提供することで、さらなる診断の効率化と医療の質の向上、人々の健康の維持増進に貢献していきます。

* 例えばCT検査では1回あたり数千枚規模の画像が撮影されている。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係 富士フィルム株式会社 コーポレートコミュニケーション部

TEL:03-6271-2000